

* 2001年10月29日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳です。

[ご参考]

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ、

2001年第3四半期業績の概要を発表

1株当たり22セントの営業損失を計上
同時多発テロと税効果除外後の経常利益は5%増加
日本における変額年金保険の当期販売額は、160億円を突破

[米国 コネチカット州ハートフォード 2001年10月29日]

国際的な大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ (NYSE 略称: HIG、以下「ザ・ハートフォード」) は本日、2001年第3四半期業績の概要を発表し、9月11日に発生した同時多発テロ関連の損失4億4,000万ドルを反映し、5,200万ドルの営業損失を計上したことを明らかにしました。当四半期の業績には、連邦税の税効果会計分1億3,000万ドルが反映されています。

同時多発テロによる損失と税効果会計の影響を除外すると、当第3四半期の経常利益は前年同期の2億4,500万ドルを5%上回る、2億5,800万ドルに達しています。この増益は、主として法人向け保険と団体保険部門が高水準の業績を達成したことに加え、2001年4月1日に買収を完了したフォーティス・ファイナンシャル・グループ (FFG) の営業利益が貢献したことによるものです。その一方で、株価の下落が生命保険事業に与えた影響、再保険部門の業績低下および個人保険部門における損失の増加により、この増益のプラス効果は部分的に相殺される結果となりました。

なお、経常利益からは税引後の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) と会計方針の変更による累積的な影響は除外されています。

ザ・ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは次のように述べています。「今回の同時多発テロは経済、保険業界、そして米国人の心理に非常に深刻な打撃を与えました。この事件は今後も長期にわたり、リスク評価と保険価格に影響を及ぼしていくものと思われます。」

さらに、「当社は、顧客が生活を建て直し、正常な活動に戻るための支援に固い決意で取り組んでいます。このテロ事件がもたらした損害の規模を正確に知るためにはまだ時間がかかりますが、保険業界に多大な経済的損失を与えたことは明らかです。しかし、ザ・ハートフォ

ードは、同時多発テロで受けた重大な損失の影響に対処し得る強固な財務基盤を確立しています。また、保険価格の急激な上昇や、質への逃避（フライト・トゥー・クオリティ）などの恩恵を受ける地位を占めています。さらに、最近、4億5,000万ドルの増資を行い、当社が展開しているあらゆる事業分野で成長の機会を積極的に捉えていく準備を整えています。」と付け加えています。

当四半期の収益は前年同期の38億ドルから2%減の37億ドルにとどまりました。この減収は、同時多発テロに関連する追加的な再保険負担により北米の損害保険料収入が1億1,400万ドル減少したこと、またアルゼンチンの合併事業に対する当社の持ち分を含む、一部の海外子会社売却に伴う正味実現キャピタル・ロスによるものです。このマイナス効果は、団体保険の新規開拓が高水準の伸びを達成し、実質的に北米におけるすべての損害保険部門において保険料収入が増加したこと、またフォーティス社の買収によって相殺される形となりました。

当四半期の税引前正味投資利益は、フォーティス社の買収とキャッシュフローの改善が寄与し、前年同期比5%増の7億1,400万ドルに達しました。

当四半期における生命保険事業の経常利益は2億8,200万ドルを計上しています。また、1億3,000万ドルにのぼる税効果ならびに2,000万ドルの同時多発テロ関連の損失を除外した後の経常利益は、前年同期比で13%の増加となっています。

当四半期は、株式市場が厳しい状況に直面したにもかかわらず、4つの事業部門（投資商品、個人生命保険、団体保険および企業購入生命保険）のすべてにおいて2桁の増益を達成したほか、フォーティス社買収のプラス効果が生命保険事業の利益に大きく貢献しました。

さらに当社の日本における生命保険事業では、ハートフォード生命保険株式会社が、当四半期に160億円を超える変額年金保険の販売を達成しました。同社の2001年における変額年金保険の販売額はすでに380億円を超えています。

2001年通期（1～9月期）の業績

2001年通期におけるザ・ハートフォードの経常利益は4億6,300万ドル、一株当たり（希薄化後）では1.93ドルを計上しました。同時多発テロと税効果の影響を除外した後の通期の経常利益は7億7,300万ドル、1株当たりでは3.23ドル（希薄化後）と、前年同期の7億1,000万ドルから9%の増加となっています。

通期の総収益は前年同期の108億ドルを5%上回る113億ドルに達しました。

2001年9月30日現在、ザ・ハートフォードの総資産は前年同日比で4%減少し1,706億ドルとなっています。また、運用資産残高（投資信託資産を含む）も前年同日比で1%減少して1,850億ドルとなりました。2001年9月30日現在の未実現損益を控除した後の当社の1株当たり簿価は、前年同日の29.57ドルから11%上昇し32.94ドルに達しています。

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ (NYSE 略称: HIG、以下「ザ・ハートフォード」)は米国でもっとも由緒ある国際的な大手保険および金融サービス会社の一つです。2001年9月30日現在、当社の総資産は1,706億ドル、株主資本は88億ドルに達しています。ザ・ハートフォードは、自動車保険、住宅保険をはじめとする損害保険、再保険、各種生命保険のほか、投資金融商品、従業員向け福利厚生商品、団体退職貯蓄プランや法人向け金融商品などを提供しています。ハートフォード生命保険株式会社はザ・ハートフォードの子会社です。

ザ・ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ(www.thehartford.com)にアクセスして The Hartford's Investor Financial Supplement のページをご覧ください。

このリリースに記載された一部のステートメントは、1995年私募証券訴訟改正法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995)において定義されている予見的情報 (forward looking information) であるとみなす必要があります。当社は、投資家の皆様にこのような予見的ステートメントが将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は大きく異なる可能性があることをお断りします。投資家の皆様は、当社の事業に係わるリスクと不確実性が将来の業績に影響を及ぼす可能性を考慮することが求められます。こうしたリスクと不確実性については、皆様が入手可能な文書、例えば当社の年次報告書、SECに提出した文書等に記載されています。

またこうした不確実性には、9月に発生した同時多発テロ事件に伴う被害の実態や額が予測できないこと、その他新事実の発覚、再保険契約下での再保険会社の今後の対応、再保険料の上昇がもたらす影響、予想できない損失を被る可能性、経済および経営環境が予想よりも悪化する可能性、金利または株式相場変動の可能性、予想以上に競争が激化する可能性、当社にとって不利な法律の制定や司法判断の可能性および自然災害が予想を超える頻度または深刻度で発生する可能性などが含まれます。なお、当社では、発表当日後における本リリースの内容改訂については義務を負っていません。

<この件に関するお問い合わせ先>

ハートフォード生命保険株式会社
社長室 課長
ブルース・エルズワース
電話: 03-5777-8083
bruce.j.ellsworth@hartfordlife.com

ギャビン・アンダーソン・アンド・カンパニー
笠原佳世 / 宮川真理
電話: 03 5404 0640
kkasahara@gajapan.co.jp/mmiyakawa@gajapan.co.jp/